

## 秋の森で出会う木の実と虫たち！ (森のようちえん楽校)

- 1 日 時：平成29年9月23日（土）  
午前の部 11：00～12：00  
午後の部 13：15～14：15
- 2 場 所：福井ふるさと学びの森（大野市 自然保護センター自然観察の森）
- 3 参加者：10（大人5、子ども5）
- 4 講 師：大石橋 節子さん（自然観察指導員の会）
- 5 主 催：福井県自然保護センター、福井県里山里海湖研究所
- 6 イベントのようす：



ドングリに虫が卵を産み付けた穴が見えますね。

季節が夏から秋へと変わりつつある奥越高原の森に入って、この時期の木の実や生き物の様子を観察しました。

自然観察指導員の大石橋節子さんが、始めに「五感」を使って探しに行こうと話されました。よく見つめる、耳をすまして聴く、香りを嗅ぐ、触ってみる。味わうことだけ今はできないが、五感を働かせることが観察するときのポイントですよ、と幼い子どもたちにも分かる言葉で説明されました。

そして、約1時間15分の中で、木の実や虫たちを探していきました。



説明をしっかりと聴く子どもたち。

参加者にはビンゴゲーム形式の観察カードが用意され、楽しみながら森の小路をたどっていきました。

樹木によって形の異なるドングリの実。その実がついた枝先を噛み切って落とすチョッキリやオトシブミなどの虫たち。せせらぎの音をたどっていけば、イモリやサワガニとご対面。

小枝を折ってにおいを嗅ぐとハーブのようなよい香りのする木。目はないけれども糸のように細く長い脚を巧みに使って地表を行き来するザトウムシ。

加えて、あちこちから聞こえてくる小鳥のさえずりや、秋の虫たちの涼やかな音色。



カエンタケという毒キノコには絶対近づかないでね。

太陽と大地と水と空気が、森の隅々にたくさんの命を育てていることを感じる事ができたように思います。

1時間余りの時間が短く感じられた自然観察でした。参加者は少なかったものの、自然保護センターに戻った後、全員が晴ればれとした表情だったのが印象的でした。

最後に、講師の大石橋さんから猛毒の「カエンタケ」の話を聞いて終了しました。